

令和7年度
会 報
第22号



【晩秋のゆりの木並木】

信州大学農学部後援会

農学部 HP: <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/>

目 次

●ご挨拶	後援会長 平出 衛一	1
●農学部後援会の皆様へ	農学部長 米倉 真一	2
●農学部の学生支援について	教務・学生副委員長 濱渦 康範	3
●大学だより		
・令和6年度 後援会長賞・農学部長賞		4
・令和7年度 学会賞等の受賞		6
・進路情報		7
・国際交流情報		8
・研究室紹介：食品免疫機能学研究室（田中研究室）編		9
・キャンパスフォト		10
・サークル紹介 村づくり応援隊・自然科学研究会		11
●事務局だより		
・令和6年度事業報告		13
・令和6年度決算書		14
・令和7年度事業計画		15
・令和7年度予算書		16
・後援会役員名簿		17
・令和7年度農学部後援会総会		18
・まなざし	副会長 田中 賢	19
●あとがき	学務グループ学生支援担当主査 二木 歩	

ご 挨 拶

後援会長 平出 衛一

平素より信州大学農学部後援会の活動に対し、ご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本会は、学生一人一人が安心して学業に打ち込める環境づくりを目的に、保護者と大学が協力しながら歩んでおります。

農学部が担う役割は、年々その重要性を増しています。地球規模で食料問題や環境課題が顕在化する中、地域の豊かな自然と調和しながら持続可能な社会を築くためには、農学の知と実践が欠かせません。信州大学農学部は、山岳地域に根ざした研究と教育を特色とし、学生が現場に足を運び、自ら考え行動する機会を多く備えています。こうした学びの姿勢は、社会に出た時に確かな力となるはずです。

地域社会とのつながりも、農学部の大きな強みです。学生が地域の課題に携わり、住民と協働しながら実践力を磨く機会は、他には替えられない経験です。この挑戦を後押しする体制を、後援会としても積極的に支えています。学生が未来への希望を持ち、地域や世界に貢献できる人材として羽ばたいていくことを願っております。本年度開催されました信大マルシェ、落葉松祭は地域の皆様が多く来校いただき、信大農学部の活動を感じていただけるいい機会になったと思います。特に落葉松祭はコロナを境に開催中止となり、学生も何もわからない、知らないゼロから催しを考え、立案し当日を迎え大盛況に終わった事はとても素晴らしいと感じました。

寄稿にあたり今までの事を振り返ると娘が信州大学に入学し、後援会の役員を拝命してから気が付くともう卒業の年になりました。当時はコロナ禍から徐々に生活がもどりつつある時期であり、サークル活動もすこしずつ制限がなくなり、娘も高校の時不完全燃焼であった吹奏楽にもう一度情熱が戻り、各種大会や定期演奏会に参加することが出来、充実した大学生活を送れた事に親として安心するとともに、今秋の定期演奏会で中学生から見守ってきた吹奏楽も一旦区切りを迎えるという寂しさもあります。

ここで、私が経験し影響があった出来事をお話したいと思います。娘が高校時代お世話になった顧問が保護者会の中で「今年の大会は、私が卒業した母校と恩師がいる高校、そして私がこの子たちを東海大会に連れていきます。」と宣言し、宣言通り顧問の母校、恩師がいる高校、そして娘の高校が県代表として東海大会に駒を進めることが出来ました。

私がこの時感じた事は、「思いを口にすれば叶う。」という事です。この事は私の人生で良いことも悪いことも口にするとその通りになってしまうという事を気づかせてくれた出来事でした。学生の皆さんにはやりたい事や思っている事を思っているだけでなく、口に出して夢を叶えて欲しいと思います。

今後も、皆さまと一緒に学生たちが元気に学び、活躍する姿を見守り、保護者、大学そして学生が繋がりを持ちながら歩んでいけるよう、引き続き活動のご協力を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

農学部後援会の皆様へ

農学部長 米倉 真一

後援会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。令和4年度より学部長を仰せつかっております米倉真一と申します。後援会の皆様方には、日頃より学部・研究科の教育・研究ならびに学生の福利厚生、課外活動等にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。平成16年度に後援会を組織していただき、在学生のサークル活動、大学祭、学生表彰、合同企業説明会などの就職活動等、学生生活に対して種々のご支援をいただいております。これまでのご支援・ご協力に対しまして深く感謝申し上げます。

本年、信州大学農学部は創立八十周年という記念すべき佳節を盛大に迎えました。1945年2月、専門学校令に基づき長野県立農林専門学校が認可され、同年4月に農科・林科の二科を擁して開校しました。その後、1949年制定の「国立学校設置法」により新制大学が発足する際、同校を母体として信州大学農学部が設置され、今日に至る八十年の歩みを刻んでまいりました。これまでの卒業生は一人余に及び、農林業分野はもとより、官界、産業界、学界など多岐にわたり有為の人材として活躍され、高い評価をいただいております。今後も、生命・食料・環境といった人類共通の課題に応えるべく、先進的かつ柔軟な教育研究体制の整備に努めてまいります。

本学部は、八十年に及ぶ歩みの中で、常に時代ごとの要請や学術の進展に応じ、教育と研究の充実に邁進してまいりました。近年の気候変動、食料安全保障、デジタル化など社会構造の急激な変化に対応するため、本年の節目に従来の一学科四コース制を改め、「一学科三コース＋特別コース」へと再編を行いました。従前の教育資産と特色を継承しつつ、学際性と実践力を高め、学生が主体的に学び、将来において社会課題の解決に寄与し得る人材を育成する体制を整えております。また、これらの教育は研究に裏付けされた先端性が求められており、地域資源やフィールドを最大限に活用し、世界に通用する学際的かつ先端的研究を推進しております。

今後を見据えると、農学にはかつてない重責が課せられています。地球温暖化と生態系保全の両立、持続可能な食料生産、資源循環とバイオマス利用、さらにはデジタル技術の導入による農林業の変革——これらは、まさに人類の未来を左右する課題です。信州大学農学部は、これからも引き続き、自然豊かな環境のもとで地球的な広い視野と現実的な視点に立って農学に関する広い知識と技術を涵養し、その成果を広く社会に還元できるよう努力を続けてまいります。本学部の歴史は、不断の変革と精神の継承の積み重ねであります。今後も地域社会、関連産業界、そして同窓生各位のご期待に応えつつ、その伝統を未来へとつなぎ、更なる発展を期して精進してまいり所存であります。末永きご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

農学部の学生支援について

教務・学生委員会 副委員長 濱渦 康範

残暑厳しかった夏が終わったと思えば、急に肌寒くなり、短い秋を乗り越してすぐにでも冬に突入しそうな勢いを感じております。近年は、気候や気象についても、「例年通り」の感覚が通用しないことも多く、私たちはまさに、自然界も含めたVUCAの世界に直面していることを痛感いたします。

大学は（この記事を書いている現在）後期の授業が始まり約3週間が経つところですが、この時期は季節の変わり目として心身に変調をきたす学生も見受けられ、体調管理などに注意が必要です。また、コースによる違いはありますが、3年生は新しく配属された研究室に馴染んできた頃、4年生は卒業研究の追い込みをますます頑張っているところでしょうか。紅葉が綺麗な伊那キャンパスで気持ちよく勉学・研究に励んでもらいたいものです。

学生たちは、学業・研究と並行して、サークル活動やその他様々な課外活動によって自分を磨いて人間の幅を大きくし、就職活動を通じて人生における次の活躍ステージとしての社会へ羽ばたこうとしています。活発・前向きで順調な人もいれば、様々なプレッシャー、ストレス、人間関係の難しさなどで調子を狂わせてしまう人もいます。このように、学生のキャンパスライフの中では、卒業に向けた学業の支援以外にも様々な支援が必要な場面が多々あります。農学部では、全学的組織と協力しながら、学業への経済的支援（授業料免除、奨学金の申請支援）、課外活動への支援（サークル活動や大学祭開催への支援など）、心身の健康への配慮（担任による面談、学生相談室における情報収集、保健室・カウンセリング室へのつなぎ）、就職活動支援（就職資料室、就職個別相談、各種のセミナーや企業説明会の設定）などを行っており、適切な修学・活動環境の維持に努めています。こうした活動の支援には、後援会からも貴重な資金をいただいております。おかげさまで、サークル活動や落葉松祭の充実、学生表彰に至るまで、学生生活の質の向上に関わる支援が強化され、様々な活動が継続できていることを心より感謝申し上げます。

厳しい冬が近づいてきますが、今後一層の体調管理、心のケアも必要になるとともに、降雪や凍結による交通事故の危険も増すため、様々な注意が必要となります。是非ご父兄の皆様方からも、余裕を持った行動と安全管理、困ったことや悩み事があればカウンセリング室や学生相談センターなどの窓口を積極的に活用する、といったことをお勧めいただければ幸いです。学生たちが楽しそうに充実したキャンパスライフをおくる姿は私たちにとっても喜びであり、その状況は学部としての強みでもあります。それを支えて下さっている父兄の皆様、後援会の皆様に、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。



令和6年度 後援会長賞

コース・分野ごとに専攻研究又は修士論文が高い評価を得た学生に対して、表彰状を授与するとともに、記念品を贈呈いたしました。

後援会長賞は、他の学生の範となった者を表彰することにより、表彰された学生の栄誉をたたえ、在学生の勉学、研究活動に対する意欲を高め、励みとなることを目的としています。

受賞者

【専攻研究】各コース2名

(敬称略)

コース名	氏名
生命機能科学	有田 芽生
	井原 里彩
動物資源生命科学	太田 彩希
	久保 美怜
植物資源科学	新井 滉太
	八木澤 懂子
森林・環境共生学	相澤 つかさ
	大井川 和心

【修士論文】各分野1名

(敬称略)

分野名	氏名
先端生命科学	鈴木 果穂
食品生命科学	高尾 朋哉
生物資源科学	小池 美星
環境共生学	永田 紘夢
生命工学	柴山 朋子

令和6年度 農学部長賞

表彰者に対して、表彰状を授与するとともに、記念品を贈呈いたしました。

農学部長賞は、他の学生の範となった者を表彰することにより、表彰された学生の栄誉をたたえ、在学生の勉学、学生活動に対する意欲を高め、励みとなることを目的としています。

表彰者

【第5条第1号】 学部における学業成績が特に優秀であると認められるもの

(敬称略)

コース名	学年	氏名	具体的内容
生命機能科学	4	近藤 友香	学業成績が特に優れている
動物資源生命科学	4	渡邊 拓実	//
植物資源科学	4	吉田 優香	//
森林・環境共生学	4	大井川 和心	//

【第5条第2号】 大学院における学術研究の成果が特に顕著であると認められるもの 個人

(敬称略)

分野名	学年	氏名	具体的内容
総合理工学研究科 農学専攻 食品生命科学分野	2	鈴木 真彩	2024年11月に開催された第83回日本栄養・食糧学会中部支部大会の口頭発表において、「フテロスチルベンはPPAR δ を介して筋細胞における異所性脂肪の蓄積を減少する」を発表し、学生優秀発表賞を受賞した。

(敬称略)

分野名	学年	氏 名	具体的内容
総合理工学研究科 農学専攻 食品生命科学分野	2	高尾 朋哉	2023年9月30日～10月1日に開催された2023年度日本農芸化学会中部・関西支部合同大会において、「食用キノコ（マスタケ）に含まれる抗酸化物質であるinaosideAの合成研究」を発表し、中部支部学術激励賞を受賞した。この研究成果は、2024年11月にWILEY社のAsian Journal of Organic Chemistry誌のFront Coverに採択された。
総合理工学研究科 農学専攻 生物資源科学分野	2	小原 涼太郎	2024年12月に開催された第31回日本育種学会中部支部談話会において、「長野県在来カブ品種“稲核菜”における自家採種の現況と遺伝的多様性評価」を発表し、優秀発表賞を受賞した。
総合理工学研究科 生命医工学専攻 生命工学分野	1	佐々木 優	2024年11月に開催された第23回糸状菌分子生物学コンファレンスにおいて、「果樹炭疽病菌Colletotrichum fioriniae GCA6における感染特異的形態分化を制御する因子の探索」について口頭発表とポスター発表を行い、学生優秀ポスター発表賞を受賞した。
総合理工学研究科 生命医工学専攻 生命工学分野	1	本田 莉夏子	2024年9月に開催された2024年度日本植物病理学会関東部会において、「Colletotrichum fioriniae GCA6から単離した植物の胚軸伸長を促進する新規化合物の同定」を発表し、学生優秀発表賞を受賞した。

団体

(敬称略)

団体名（代表者：コース・分野 学年 氏名）	具体的内容
ランドスケープ・プランニングプログラムチーム （代表者：ランドスケープ・プランニングプログラム 2年 増田 達哉）	2023年12月に開催された景観開花。実行委員会主催のデザインコンペにおいて、「新水空間-柔らかく水と付き合う新たな霞堤と遊水池の提案-」を提案し、佳作入賞をした。

【第5条第3号】 スポーツ活動で優れた成績を収めたもの

(敬称略)

団体または個人名（代表者：コース・分野 学年 氏名）	具体的内容
植物資源科学コース 4年 西村 太志	春季秋季の地方大会で優秀な成績を収め、全国レベル大会での出場を果たした。 ①令和6年度 春季北信越学生弓道大会 男子個人2位。 ②第36回全国大学弓道選抜大会出場。 ③令和6年度 北信越学生弓道選手権大会 男子個人優勝。 ④全日本学生弓道王座決定線第72回男子の部出場。 ⑤東西学生弓道選抜対抗試合第70回男子の部出場。 ②④⑤は全国レベルの大会。⑤は全国から20名のみが参加できる試合。
植物資源科学コース 4年 福嶋 明大	2024年11月に開催された第73回長野県縦断駅伝競走大会に上伊那チームの12区として出場し、チーム優勝を果たした。 2024年6月に開催された第98回北信越学生陸上競技対校選手権大会の男子1500mに出場し、2位に入賞した。⇒ブロック大会で上位入賞を果たした。

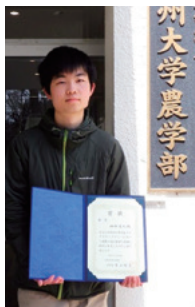
【第5条第6号】 その他前各号と同等又はそれ以上の表彰に値する行為等があったと認められるもの

(敬称略)

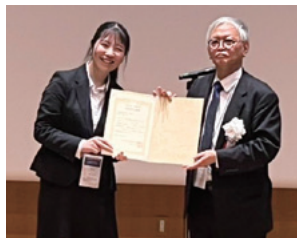
団体または個人名（代表者：コース・分野 学年 氏名）	具体的内容
植物資源科学コース 4年 吉田 優香	2024年9月に開催された2024年度日本植物病理学会関東部会で「コスモス炭疽病菌におけるコアエフェクターの重要性とシロイヌナズナ変異体を用いたMC69の標的探索」を口頭発表し、学生優秀発表賞を受賞した。⇒学術研究の成果等が特に顕著である。

令和7年度 学会賞等の受賞

No		コース・分野	受賞者	受賞名	受賞日	タイトル
1	学部	生命機能科学コース 3年	田中 光人	工学部主催 省エネアイデアコンペ 「金賞」	令和7年 4月11日	廃棄落葉落枝を用いた発酵熱利用
2	修士	食品生命科学分野 1年	岩崎 水優	第79回 日本栄養・食科学学会大会 「学生優秀発表賞」	令和7年 5月28日	レスベラトロールはアンドロゲン受容体のN末端ドメインに結合し、N/C相互作用を抑制する
3	修士	先端生命科学分野 2年	長田 桃歩	令和7年度 日本植物病理学会大会 「学生優秀発表賞」	令和7年 6月16日	タバコのサリチル酸合成経路における鍵酵素CNLの生理的基質化合物の探索
4	博士	生物・生命科学分野 3年	Astri Suryani Prawulanari	第4回ISBP 「フラッシュトーク優秀発表賞」	令和7年 7月14日	Effects of Asp-Arg Dipeptide on Ca ²⁺ -Mediated Upregulation of BDNF and Cognitive Function in Neurodegenerative Models
5	修士	環境共生学分野 1年	杉山 薫子	令和7年度 (公社) 砂防学会研究発表会 長野大会「若手優秀発表賞」	令和7年 7月25日	能動的流木捕捉工開発のための実験的研究
6	修士	食品生命科学分野 1年	川島 萌笑	日本農芸化学会 中部支部第202回例会 「学術奨励賞」	令和7年 9月20日	ケール搾汁由来エクソソーム様ナノ小胞に内包されるmiRNAは皮膚線維芽細胞における創傷治癒を促進する
7	修士	食品生命科学分野 1年	杉村 奏美	日本農芸化学会 中部支部第202回例会 「企業奨励賞」	令和7年 9月20日	サルナシ果実由来エクソソーム様ナノ小胞はBDNF発現を介して健忘モデルマウスの認知機能を改善する
8	修士	食品生命科学分野 1年	櫻井 杏実	日本農芸化学会 中部支部第202回例会 「学術奨励賞」	令和7年 9月20日	(-)-Mucocinの合成研究
9	博士	生物・生命科学分野 2年	山口 みゆ	園芸学会令和7年度 秋季大会ポスター発表部門 「若手優秀発表賞」	令和7年 9月22日	イチゴにおける新規受粉方法としての溶液受粉の有効性評価
10	修士	生命工学分野 1年	田中 聡大	日本植物病理学会関東支部 「学生優秀発表賞」	令和7年 10月8日	炭疽病菌群の侵入を阻止するシロイヌナズナの非宿主抵抗性構成因子の同定とその重層構造
11	博士	生物・生命科学分野 2年	三尾 建斗	システム農学会2025年度大会 「優秀発表賞」	令和7年 10月19日	UAVマルチスペクトル画像を用いた大麦の品質推定モデルの作成
12	学部	植物資源科学コース 4年	赤羽 優乃香	糸状菌分子生物学コンファレンス 「企業特別賞 (三井化学クロップ&ライフソリューション賞)」	令和7年 11月18日	Colletotrichum属菌の糖により制御される植物感染特異的形態分化



1 田中 光人さん



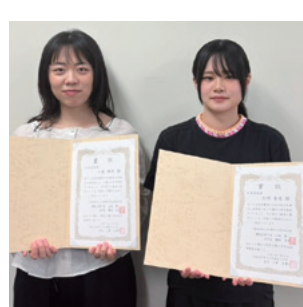
2 岩崎 水優さん



3 長田 桃歩さん



4 Astri Suryani Prawulanariさん



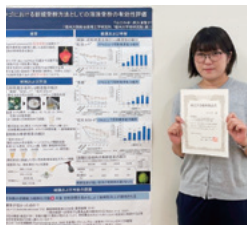
6 川島萌笑さん (左) と 7 杉村奏美さん (右) さん



5 杉山 薫子さん
賞状



8 櫻井 杏実さん



9 山口 みゆさん



10 田中 聡大さん



11 三尾 建斗さん



12 赤羽 優乃香さん

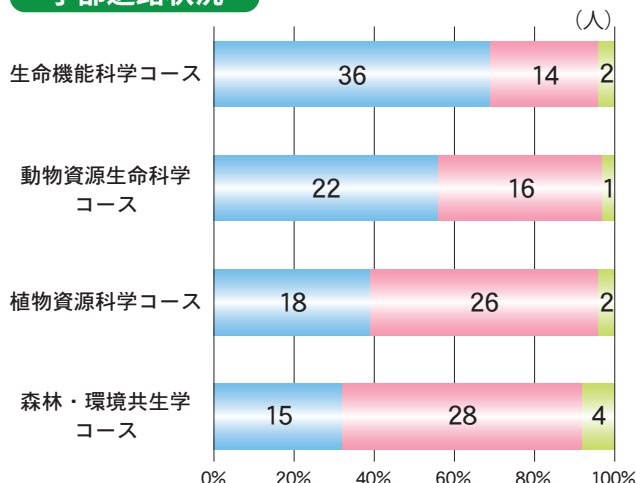
進路情報

農学部に進路状況・就職状況です。

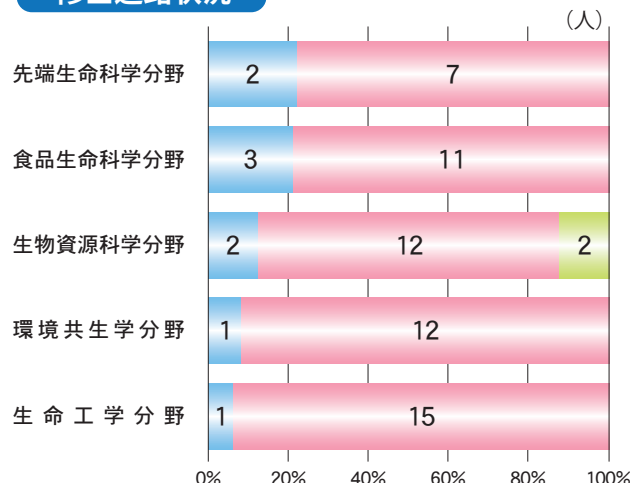
令和6年度進路状況

進学
就職
その他

学部進路状況



修士進路状況



主な就職先

学部 (令和6年度)

【生命機能科学コース】

1. 東京都教育委員会 (教員)
2. ベーリンガーインゲルハイム製薬
3. 株式会社スギ薬局
4. 株式会社ブルボン
5. 株式会社スドー・ジャム
6. スターバックスコーヒー・ジャパン株式会社
7. タマノイ酢株式会社
8. 株式会社八十二銀行 (デジタル・システムコース)
9. 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ信越 (NTTデータ信越)

【動物資源生命科学コース】

1. 農林水産省
2. 長野県
3. 広島県
4. ホクレン農業協同組合連合会
5. JA 愛知経済連
6. キッセイ薬品工業株式会社
7. 日曹商事
8. 株式会社ナリコマエンタープライズ
9. 日清丸紅飼料株式会社
10. 有限会社藤井牧場

【植物資源科学コース】

1. 厚生労働省
2. JA全農長野
3. 南安曇農業高校
4. 伊那食品工業株式会社
5. 株式会社R&Cながの青果
6. 株式会社サカタのタネ
7. 日成共益株式会社
8. ひかり味噌株式会社
9. 雪印種苗株式会社
10. ミネベアミツミ株式会社

【森林・環境共生学コース】

1. 国土交通省
2. 林野庁
3. 国土交通省 関東地方整備局
4. 長野県
5. 東京都
6. 北海道
7. 住友林業株式会社
8. 日本工営都市空間
9. 株式会社アルゴス
10. 日比谷アメニス

修士 (令和6年度)

【先端生命科学分野】

1. 株式会社新日本科学
2. デンカ株式会社
3. エア・ウォーター株式会社
4. 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

【食品生命科学分野】

1. 株式会社ココカラファイン
2. 昭和産業株式会社
3. アピ株式会社
4. ハナマルキ株式会社

【生物資源科学分野】

1. 農林水産省
2. カネコ種苗株式会社
3. フィード・ワン株式会社

【環境共生学分野】

1. 林野庁
2. 東京都
3. 日本製紙株式会社
4. 横浜植木株式会社

【生命工学分野】

1. 東京都教育委員会
2. ヤマサ醤油株式会社
3. JA 岡山
4. 日本曹達株式会社
5. 三生製薬株式会社

国際交流情報

農学部では、留学生と様々なトピックについて英語で会話を楽しむ「English Salon」をはじめ、短期や中・長期の交換留学や研究留学、留学生の受け入れなど、多彩な国際交流事業を行っています。



<Fawaz先生のEnglish Studio>

伊那キャンパスで実施されているEnglish Studioは、誰もが安心して参加できるよう「少人数制」を徹底しています。グループ練習で発言機会を確保し、即興スピーチやプレゼンテーションにも取り組むことで、「使える英語」の習得をサポートしています。

16名の参加学生は曜日ごとに4グループに分かれて全8回のプログラムを修了しました。English Studioで培われた自信とスキルが、今後の学修、学内の国際交流イベント、そして国際社会での活躍に向けた確かな土台となることを願っています。

<高大連携国際教育イベント「Cultural Connections～Connecting through Arts～」>

令和7年8月6日、長野県内の高校生を招き、高大連携国際交流イベントを実施し、県内3校から19名の高校生と、農学部から留学生を含む13名、計32名が参加しました。

今年度は、「アートを通してつながる」というテーマを通して共通点やギャップについて考えることで、多様性への深い理解と異文化コミュニケーション能力を高めることを目的としました。参加者たちは、アートに関するプレゼンテーションやパフォーマンス、共同での「折り鶴アート」制作、留学生の自国料理を囲む昼食会などを通じて交流を深めました。



<グローバルコア人材養成コース 英語能力試験補助>

全学横断特別教育プログラム「グローバルコア人材養成コース」は、海外・国内におけるグローバル環境で、組織のコア人材として活躍できる素養や能力、教養を身につけ、主体的に協働できる人材の育成を目指しています。本プログラムに登録している農学部生（現在56名）に対し、後援会より、プログラム修了に必要な英語能力試験の受験料を補助していただけることになりました（上限5,000円）。多くの学生がプログラム修了を目指して頑張っています。ご支援に心より感謝いたします。



総合医理工学研究科総合理工学専攻 1年 新妻 史絵

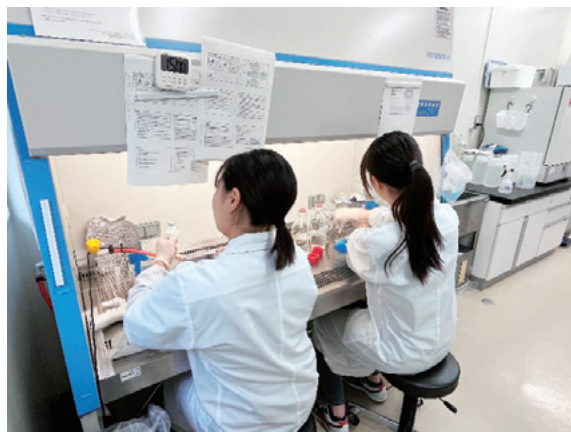
私たち食品免疫機能学研究室では、食品成分による免疫調節機能の解明や、感染症、アレルギー疾患、がんなどの病気の予防につながる食品成分の探索を目指した研究を進めています。私たちが現在取り組んでいる研究活動について簡単にご紹介します。

免疫系は、病原体から体を守る防御機構ですが、免疫調節機能が崩れることで、加齢関連疾患や生活習慣病、腫瘍の発生などのリスクが上昇することも知られています。近年では、食品由来成分が免疫応答を調節し、炎症の抑制や代謝バランスの改善に寄与することが報告されており、当研究室でもその分子メカニズムの解明を目指しています。

研究テーマは多岐にわたり、伝統食品や地域資源を活用した研究を積極的に展開しています。野沢菜漬けやケフィア、薬用植物、生姜漬けなど多種多様な単離源の乳酸菌が、免疫機能を向上させるメカニズムについて解析を進めています。さらに、野沢菜や米ぬか、ポリフェノールなどの食素材が免疫機能に及ぼす効果や、カロリー制限による抗腫瘍効果についても研究しており、日常的な食事から免疫機能を高める可能性を探っています。

9月下旬には、新たに4名の3年生が配属されました。配属後は、免疫学の基礎や当研究室のこれまでの研究成果を学ぶ免疫ゼミを行い、3年生だけでなく先輩学生においても学びの機会となりました。ゼミを通じてメンバー全員で積極的な議論を交わし、より免疫学への理解を深めることができたと思います。また、研究活動の合間には、バドミントンや登山などを企画して行っており、メンバー同士で交流を深めています。

私たちは、食品に秘められた免疫調節機能を科学的に解明し、健康維持や疾病予防につながる新しい知見を発信することを目標としています。今後も、免疫機能を適切に調節する食品成分を探索し、健康長寿社会に貢献する研究を展開していきたいと考えています。



からまつ 落葉松祭

10月18日(土)に、第69回落葉松祭(からまつさい)が開催されました。

今年度は「伊那谷とともにつくる落葉松祭」というコンセプトのもと、多くの地元の方がステージイベントへの出演や模擬店への出店もしていただきました。

当日は時折小雨も交じる生憎の天候でしたが、沢山のお客様がご来場してくださり、大盛況で終えることができました。

後援会から今年度も落葉松祭運営費用のご支援をいただいております。

ありがとうございました。



◆◆◆ 案内図 ◆◆◆



◆◆◆ 展示発表 ◆◆◆



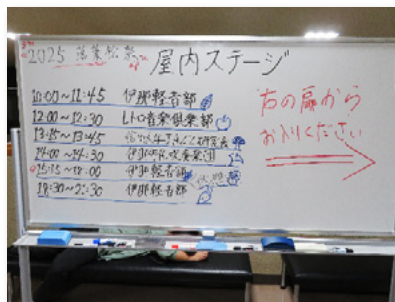
◆◆◆ 木登り体験コーナー ◆◆◆



◆◆◆ 生協前広場にて ◆◆◆



◆◆◆ 模擬店 ◆◆◆



◆◆◆ ステージ発表 ◆◆◆



村づくり応援隊

植物資源科学コース 3年 宮下 裕毅

村づくり応援隊代表の宮下裕毅と申します。村づくり応援隊は農業を通じて南箕輪村を盛り上げるため活動しているサークルです。主な活動としては、近所の方からお借りした畑の管理と、南箕輪村役場主催の「まっくん田んぼ体験隊」への参加です。

畑の管理では、近所の方の力を借りながら週に一回、みんなで管理をしています。今年は、夏の雑草の勢いがすごく、草刈りが間に合わなくなったので、近所の方から機械をお借りしました。野菜を育てることの難しさと、機械のありがたさを感じました。また、今年は落葉松祭で子供向けにサツマイモの芋ほり体験も行いました。初めてのイベントでしたが、10組ほどの方に参加していただき、楽しんでいただけました。

もう一つの活動である、「まっくん田んぼ体験隊」は南箕輪村主催の子供向けの田植えから収穫、食べるまでを体験できるイベントで、毎年参加させていただいています。子供向けに様々なレクリエーションを企画しており、毎回ご好評をいただいています。さらに今年は、「ベトリンピック」という企画を行いました。こちらは、数年前に行われていた企画を復活させたものです。競技としては手押し相撲やフラッグレース、バケツリレーなどから企画して行いました。

子供達と農業を体験する中で、農業や自然に様々な楽しさややりがいを感じることができ、とても貴重な経験をしています。また、農学部生として、身近な農業に触れることができる点に魅力を感じています。

農業に興味があるけど1人で始めるのは不安という方、イベントに興味がある方、ぜひ一緒に農業を通して村を盛り上げましょう。



自然科学研究会伊那支部

動物資源生命科学コース 3年 及川 晃行

自然科学研究会伊那支部は松本に本部があるサークル・自然科学研究会（通称自然研）の農学支部であり、野生の動植物や自然を愛好する者たちが集まるサークルです。現在所属している方々は哺乳類、両生類、爬虫類、魚類、鳥類、昆虫、きのこ、植物などの分野に興味があり、各々の方法で個人的な活動をしています。サークルとはいえど皆で集まって何かやるということはありません、基本的には自分の好きなものをとことん追い求める活動をしています。ですから、皆で活動してチームで目標を達成したいというよりは、一人で興味の赴くままに活動したいという方向に向いています。

サークル団体の通年活動として、月に一回のペースで行う例会があります。主な内容は連絡事項の通達と、生き物の目撃情報または観察方法の共有です。例会では生物観察の同行者募集も行われ、複数人で野外へ出かけることもあります。車を持っていない人にとっては、普段は行くことのできないスポットにも行けるチャンスでもあります。

それ以外の活動は、採集物や生体写真の展示です。展示方法は人によって様々です。展示会場では、生体写真を使ったポストカードやカレンダーなどの販売も行っています。今年は7月に塩尻市市民交流センター（えんぱーく）で、10月には落葉松祭で展示を行いました。どちらにも多くの方々に足を運んでいただき、私たちも来場者の皆様に生き物を紹介したり情報を共有し合ったりと、たくさんの交流を持つことが出来ました。

自然研伊那支部は創立3年とまだ歴史の浅いサークルですが、毎年生き物の面白さが詰まった展示をしているので、来年の落葉松祭には是非お越しいただければ幸いです。



2025/10/18 伊那キャンパス
2025 落葉松祭における教室展示

令和6年度 信州大学農学部後援会事業報告

1. 就職活動援助

就職講演会の開催

2. 課外活動援助

- (1) サークル活動援助(物品, 交通費等の援助)
- (2) 落葉松祭援助
- (3) フォトコンテスト経費援助
- (4) 学生ボランティア活動援助

3. 学生厚生援助

ハンドソープ購入(感染症対策等)

4. 学生表彰

- (1) 後援会長賞 13名(卒業論文・修士論文優秀者:各コース2名・各分野1名)
- (2) 農学部長賞 12名, 1団体
(学業学術研究優秀者9名, スポーツ・芸術・社会活動での高評価者2名, 団体1名, 他1名)

5. 会報出版

第21号発行(令和6年12月) 電子媒体にて発行

6. 国際交流支援

- (1) 日本人学生と留学生との交流支援
- (2) 英語学習補助(グローバルコア人材養成コース英語能力試験受験料)

7. 役員会・総会

- | | |
|----------|-------------|
| (1) 会計監査 | 令和6年6月27日実施 |
| (2) 役員会 | 令和6年8月3日開催 |
| (3) 総会 | 令和6年9月21日開催 |

令和6年度 信州大学農学部後援会【一般会計】決算書

収入総額 4,894,412 円
支出総額 2,865,822 円
次年度繰越額 2,028,590 円

(R6.4.1～R7.3.31)

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)－(A)	備 考
前年度繰越額	1,793,046	1,793,046	0	
今年度会費	3,300,000	3,100,000	-200,000	学部133人 編入3人 院42人
預金利息	20	1,366	1,346	
合 計 (C)	5,093,066	4,894,412	-198,654	

支出の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)－(A)	備 考
事業費	2,441,350	2,117,974	-323,376	
1. 就職活動援助費	30,000	29,570	-430	就職講演会
2. 課外活動援助費	1,790,000	1,530,183	-259,817	落葉松祭、サークル活動、学生ボランティア活動等 援助
3. 学生厚生援助費	100,000	85,140	-14,860	薬用ハンドソープ 90ℓ
4. 学生表彰経費	144,900	181,150	36,250	農学部長賞、後援会長賞等経費
5. 会報出版費	276,450	274,951	-1,499	会報第21号作成、はがき代
6. 国際交流支援経費	100,000	16,980	-83,020	留学生等との交流経費、英語能力試験補助 等
会議費	207,000	164,306	-42,694	
1. 総会費	176,000	138,656	-37,344	総会諸経費
2. 役員会費	31,000	25,650	-5,350	役員会議費、交通費
事務費	140,000	102,710	-37,290	
1. 事務用品費	50,000	26,204	-23,796	OAラベル、トナーカートリッジ 等
2. 通信費	90,000	76,506	-13,494	総会開催通知等
事務委託費	300,000	300,000	0	事務委託費
振替手数料	40,000	30,832	-9,168	会費納入振込手数料
学部行事援助費	150,000	150,000	0	国際交流事業補助
基金特別会計へ繰入	0	0	0	
予備費	1,814,716	0	-1,814,716	
合 計 (D)	5,093,066	2,865,822	-2,227,244	
次年度繰越額 (C)－(D)	0	2,028,590	2,028,590	
総 合 計	5,093,066	4,894,412	-198,654	

令和6年度 信州大学農学部後援会【基金特別会計】決算書

収入総額 2,631,831 円
支出総額 0 円
差引繰越額 2,631,831 円

(R6.4.1～R7.3.31)

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)－(A)	備 考
前年度繰越額	2,631,786	2,631,786	0	
預金利息	50	45	-5	
合 計 (C)	2,631,836	2,631,831	-5	

支出の部

(単位：円)

項 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較 (B)－(A)	備 考
予備費	2,631,836	0	-2,631,836	
合 計 (D)	2,631,836	0	-2,631,836	
次年度繰越額 (C)－(D)	0	2,631,831	2,631,831	
総 合 計	2,631,836	2,631,831	-5	

令和7年度 信州大学農学部後援会事業計画

1. 就職活動援助

就職講演会の開催

2. 課外活動援助

- (1) サークル活動援助(物品, 交通費等の援助)
- (2) 落葉松祭援助
- (3) フォトコンテスト経費援助
- (4) 学生ボランティア活動援助

3. 学生厚生援助

ハンドソープ購入(感染症対策等)

4. 学生表彰

- (1) 後援会長賞(卒業論文・修士論文優秀者:各コース2名・各分野1名)
- (2) 農学部長賞(学業学術研究優秀者, スポーツ・芸術・社会活動での高評価者)

5. 会報出版

第22号発行(令和7年12月)電子媒体

6. 国際交流支援

- (1) 日本人学生と留学生との交流支援
- (2) 英語学習補助(グローバルコア人材養成コース英語能力試験受験料)

7. 役員会・総会

- (1) 会計監査 令和7年7月31日実施
- (2) 役員会 令和7年8月9日開催
- (3) 総会 令和7年9月20日開催



令和7年度 信州大学農学部後援会【一般会計】予算書 (R7.4.1～R8.3.31)

収入の部

(単位: 円)

項 目	令和7年度 (A)	令和6年度 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
前年度繰越額	2,028,590	1,793,046	235,544	
入 金 会 費	2,720,000	3,100,000	-380,000	※ 8/9 現在の入金額 (学部生 118 名, 院生 36 名)
預 金 利 息	3,500	1,366	2,134	
合 計	4,752,090	4,894,412	-142,322	

支出の部

(単位: 円)

項 目	令和7年度 (A)	令和6年度 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
事 業 費	2,481,350	2,117,974	363,376	
1. 就職活動援助費	30,000	29,570	430	講演謝金
2. 課外活動援助費	1,840,000	1,530,183	309,817	サークル活動, 落葉松祭, フォトコンテスト, 学生ボランティア援助
3. 学生厚生援助費	90,000	85,140	4,860	ハンドソープ代
4. 学生表彰経費	144,900	181,150	-36,250	農学部長賞, 後援会長賞経費
5. 会報出版費	276,450	274,951	1,499	会報作成費, 稿料
6. 国際交流支援経費	100,000	16,980	83,020	日本人学生と留学生との交流支援経 費, 英語学習補助等
会 議 費	174,700	164,306	10,394	
1. 総 会 費	146,000	138,656	7,344	総会諸経費
2. 役員会費	28,700	25,650	3,050	役員会議費, 交通費
事 務 費	140,000	102,710	37,290	
1. 事務用品費	50,000	26,204	23,796	封筒等
2. 通 信 費	90,000	76,506	13,494	総会・役員会開催通知, 振込手数料等
事務委託費	300,000	300,000	0	
振替手数料	40,000	30,832	9,168	会費納入手数料
学部行事援助費	150,000	150,000	0	卒業式支援経費等
基金特別会計へ繰入	500,000	0	500,000	
予 備 費	966,040	0	966,040	
次年度繰越額	0	2,028,590	-2,028,590	
合 計	4,752,090	4,894,412	-142,322	

平成7年度 信州大学農学部後援会【基金特別会計】予算書 (R7.4.1～R8.3.31)

収入の部

(単位: 円)

項 目	令和7年度 予算額 (A)	令和6年度 予算額 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
前年度繰越額	2,631,831	2,631,786	45	
一般会計より繰入	500,000	0	500,000	
預 金 利 息	1,565	45	1,520	
合 計	3,133,396	2,631,831	501,565	

支出の部

(単位: 円)

項 目	令和7年度 予算額 (A)	令和6年度 予算額 (B)	差引増減額 (A) - (B)	備 考
予 備 費	3,133,396	2,631,831	501,565	
合 計	3,133,396	2,631,831	501,565	

令和7年度 信州大学農学部後援会役員名簿

役 職	氏 名	学 年	コ ー ス
会 長	(ヒライデ エイイチ) 平出 衛一	4	動物資源生命科学コース
副会長	(ヤマギシ エイジ) 山岸 英治	4	森林・環境共生学コース
副会長	(タナカ ケン) 田中 賢	3	森林・環境共生学コース
理 事	(クマガイ コウジ) 熊谷 幸治	3	動物資源生命科学コース
理 事	(モモセ マユミ) 百瀬 まゆみ	2	生命機能科学コース
理 事	(タキザワ アツシ) 滝沢 敦	2	動物資源生命科学コース
理 事	(ミヤザワ ケンジ) 宮澤 賢司	2	植物資源科学コース
理 事	(ムラタ カズヤ) 村田 和也	1	食料生産システム科学コース
理 事	(オオツカ ハルオ) 大塚 治男	1	食料生産システム科学コース
理 事	(マツシタ ユキヨシ) 松下 幸由	1	地域協創特別コース
監 事	(ヨコヤマ アツコ) 横山 厚子	4	生命機能科学コース
監 事	(コウサカ タケヒロ) 高坂 武宏	3	生命機能科学コース

令和8年度 信州大学農学部後援会役員名簿

役 職	氏 名	学 年	コ ー ス
会 長	(タナカ ケン) 田中 賢	4	森林・環境共生学コース
副会長	(クマガイ コウジ) 熊谷 幸治	4	動物資源生命科学コース
副会長	(ミヤザワ ケンジ) 宮澤 賢司	3	植物資源科学コース
理 事	(タキザワ アツシ) 滝沢 敦	3	動物資源生命科学コース
理 事	(ムラタ カズヤ) 村田 和也	2	食料生産システム科学コース
理 事	(オオツカ ハルオ) 大塚 治男	2	食料生産システム科学コース
理 事	(マツシタ ユキヨシ) 松下 幸由	2	地域協創特別コース
監 事	(コウサカ タケヒロ) 高坂 武宏	4	生命機能科学コース
監 事	(モモセ マユミ) 百瀬 まゆみ	3	生命機能科学コース



令和7年度 農学部後援会総会

令和7年9月20日（土）13時から信州大学農学部26番講義室にて後援会総会を開催しました。
今年度はオンラインでの参加者も交えたハイブリッド形式で開催され、会場へ直接ご来場
いただけない保護者の皆様も総会、農学部の現況、カリキュラム、学生支援、国際交流に関す
る説明会に参加できるようになりました。

その後、コース分野別の概要説明が行われ、希望者には教員との個別進路履修相談が行わ
れました。

最後に、生協食堂で保護者の皆様と教職員との懇談会が開催され、和やかな雰囲気の中交
流を深めていただきました。

お土産に農学部野辺山ステーションで朝収穫したキャベツをお持ち帰りいただきました。



学部長挨拶



国際交流についての説明



学生の生活サポートについての説明



懇親会での様子

懇親会では、今年度も「ケルト音楽研究会」による演奏発表がありました。



まなざし

副会長 田中 賢

キャンパスを黄金色に染めていたカラマツ林が静かに落葉し、冬の訪れを感じさせる季節となりました。

娘が伊那キャンパスに通うようになり、早2年が経とうとしています。思えば、高1から、農学部森林に進学することを決め、ずんずんと我が道を歩んできた娘です。親としては、自宅から通えるという1点に安堵し、気が変わらずに進学してくれることを望んでいました。無事入学し、ひと安心したものです。2年生になり、作業着、ナタ等、今までの娘にはなじまない物が増えました。地下足袋を持ち帰った時には、「やっぱりこんなの履くのはイヤだな」と言い出すのではとヒヤヒヤしました。しかし、試着した娘は、「かっこいい！実習楽しみ！」と、まさかの好感触。ちょっと変わってるなーと感じる娘です。

親の立場からすれば、庇護のもと大切に育ててきたつもりですが、子供たちはそれぞれに、生きる力をもって生まれ、自分で育っていくものなのかもしれません。森の中の1本の樹木のように、どんな環境にも適応しながら、自分らしく在るのでしょう。陽のない雨の日も、厳しい寒さの日もありますが、周りの者は心配はしても、成長に手を貸してあげることはできないのです。せめて、この若木たちが育っていく森が、すこやかであることを願うばかりです。

本年度の農学部学園祭のコンセプトは「伊那谷とともにつくる落葉松祭」でした。まだ子供だとばかり思っていた学生たちも、親の干渉から少し離れ生活していく中で、一人で生きていくのではないことに気づきはじめているのでしょうか。伊那谷の穏やかな自然の中で、そこに暮らす人々に支えられていること、そして、なにより学生生活を支えてくれている人がいること。

親元を離れ、学生生活を送っている学生も多いことと思います。機会がありましたら、お子さんの住む長野県や伊那谷を訪れていただき、言葉には表せない、木々の気配や、人々の雰囲気を感じていただけたらと思います。また、農産物や生產品も豊かな土地柄です。手に取って味わっていただいて、子供たちの体をつくっている食にも思いを巡らせてもらえればと思います。



あ と が き

めっきり日足も短くなり夜寒が身にしみる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

日頃は信州大学農学部後援会の活動にご支援・ご協力を賜り、深く御礼申し上げます。

毎年9月に開催される後援会総会ですが、本年度は対面に加え、オンラインでも参加できますよう、ハイブリッド形式で開催をいたしました。また、本年度総会の議場で次年度以降の開催をオンライン形式での開催とする旨が承認されました。次年度以降は遠方でなかなかお越しいただけない保護者の皆様にもご参加していただけますよう企画・ご案内してまいりますので、その際には、多くの方々にご参加いただけますと幸甚です。

また、毎年10月中旬に開催される落葉松祭ですが、本年度は昨年度よりも更に規模を拡大し、「伊那谷とともにつくる落葉松祭」というコンセプトのもと、地元到店舗を構える方々の出店や、パフォーマンス団体の方々のステージ出演など、数多くご参加をいただきました。

当日は小雨が時折混じる、あいにくの空模様でしたが、それでも多数の方がご来場して下さり、キャンパス内の雰囲気を楽しんでおられました。

落葉松祭は来年、70回という節目の回を迎えます。落葉松祭を開催するために、毎年後援会からの多大なるご支援を賜っておりますことに感謝いたします。

最後になりましたが、皆様からのご協力をいただき、会報第22号を無事発行することができました。誌面作成に当たりご協力をいただいた皆様には、この場を借りて深く感謝申し上げます。今後とも信州大学農学部ならびに後援会活動へのご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

信州大学農学部 学務グループ学生支援担当主査 二木 歩

令和7年12月発行

信州大学農学部後援会

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304

TEL/FAX 0265-76-8501

E-mail: yurinoki@shinshu-u.ac.jp

